

## 進捗状況の概要

本事業に取り組むことにより県教育委員会、県内高校との連携が強化された。特に、県内の主な進学校とは、意見交換を通じて、ともに三重県内の保健医療を支える人材を育成していくために高大接続の在り方を形作っていかうという意見で一致した。今後は、アドミッション・ポリシーの内容検討や新テストの導入に向けた高校の考え方など、広く議論を進めていきたい。

毎年8月に実施している高校生のためのキャリアデザイン講座「一日みかんだい生」では、現役の看護職者による講義やワークショップなど、看護職者としてのアイデンティティの萌芽を形成するためのプログラムを実施した。参加者にとって、看護職者への理解を深め、自身の適性を判断し、将来のキャリア形成について考える機会となっている。この取り組みにより、高校生は看護職について理解した上で、看護の道を選択することができ、県内から看護職者に適した高校生の入学を増加させ、また、看護系大学に進学してからの進路変更等を理由とする休退学防止につながったと考えられる。今後は、本講座受講後に本学に入学した学生の学修状況や休退学の実態について追跡調査し、高校へのフィードバックを行う予定である。また、高校との連携のなかで、受講者の進路状況について聞き取りを行うなどして把握に努め、本講座が受講者の進路選択にどのような影響を与えたかについても調査していきたいと考えている。

12月上旬には、推薦入試において早期に入学が決定した入学予定者とその保護者を対象に本学と連携協力協定を締結している8医療機関の他、実習病院などの協力を得て、「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会」を開催している。医療機関からそれぞれの特長や教育体制、学生に対する期待等をPRしてもらい、また、個別相談も実施することで、入学予定者の看護職者としての将来像に対する具体的なイメージを育む。この取り組みにより、入学予定者の学修へのモチベーション向上と看護職者としての職業観形成につながった。

平成27年度入試からの新課程入試にともない、看護学の基盤となる「化学」「生物」の2科目について、推薦入試による入学予定者を対象に入学準備教育を実施している。独自のテキストをもとに、インターネット配信による問題の解説を行うことで、自分のペースで学習を進めることができる。平成27年度は、高校教員や前年度の受講者からの意見を反映し、テキストの改編やインターネット配信動画の改善、スクーリング回数など、見直しを行った。スクーリングについては、12月の学習開始に合わせて1回目を実施した。特に、「基礎化学」のみ「基礎生物」のみの履修者が未履修の範囲を丁寧に教授することによって、自身で課題に取り組むうえで理解を深めることができたと思われる。2回目は3月に実施した、これまで課題に取り組んだ結果を踏まえ、理解度の低い内容について教授したことで、理解が促進されたものと思われる。入学準備教育を受講することで、合格から入学までの期間、学修習慣が継続するとともに、入学後の学修に必要な力をつけることができたため、入学後の学修の円滑な開始を支援することができた。入学後に実施した新入生基礎学力検査において、他の入試区分での入学者と比較すると、化学では統計的有意差は認められず、生物では入学準備教育受講者の得点が統計的に有意に高いことが示された。今後も、受講者や高校教員等の意見を反映し、入学準備教育が効果的なものになるよう改善を加えつつ、対象科目を増やすことも検討していく。

本事業の主な取り組みについての平成27年度の進捗状況については以上の通りであり、全体として、順調に進捗しているが、高校生を対象にした教養・基礎科目の単位認定については、科目や実施方法等で教員との協議に時間を要するため、当初の予定より遅れている。今後とも、受講者にとってのメリットを一番に考え、関係箇所との連携をさらに強化し、実現に向けた議論を活発化させていきたい。